

# 中川水辺・自然観察地あずまや

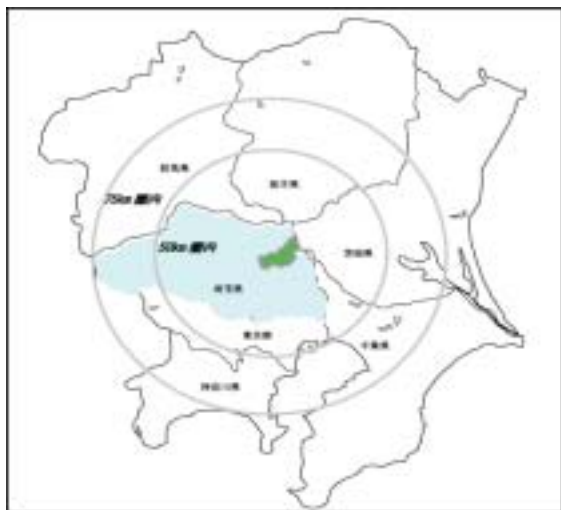
## 埼玉県久喜市栗橋総合支所建設課

### 1. はじめに

久喜市は、埼玉県の東北部にあり「豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市」を将来像として、平成22年3月23日に旧久喜市、旧菖蒲町、旧栗橋町、旧鷺宮町の1市3町が合併し、総面積82.4平方km、人口約15万7千人の新たな久喜市として誕生いたしました。

当市は内陸型の太平洋気候に属し、利根川流域の沖積平野として、市域全体がほぼ平坦な地形となっており、地域性を活かした都市機能と、豊かな自然が織りなす農村風景とが調和しております。また、関東最古の大社といわれる鷺宮神社や、関東神楽の源流といわれる国指定重要無形民俗文化財「鷺宮催馬楽神楽」をはじめ旧1市3町がそれぞれ培ってきた歴史や伝統文化に恵まっています。

都心まで50km圏にある当市の主な交通網としては、JR宇都宮線、東武日光線及び東武伊勢崎線、合わせて7駅を有するとともに、首都圏と東北地方を結ぶ東北自動車道久喜インターチェンジや平成23年5月には、首都圏中央連絡道（圏央道）久喜白岡ジャンクションが開通するほか、国道では、4号、122号及び125号、主要な県道では、川越栗橋線及びさいたま栗橋線が縦横に走り、交通立地に恵まれた地域となっております。



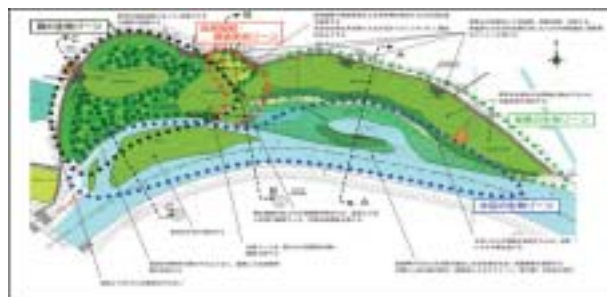
### 2. 水辺施設の整備

埼玉県は、「みどりと川・再生宣言」「川の国埼玉川の再生基本方針」を打ち出し、川の豊かな自然環境を再生し、川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するために、平成19年度か

ら川の再生事業（水辺再生100プラン事業）に取り組んでいます。

久喜市においても、良好な水辺環境を活かし、自然や親水機能の保全・創出を図るとともに、自然観察など人の利活用に配慮した水辺を創出するため、当市内を流れる1級河川中川の狐塚・中里地区におきまして、水辺再生100プラン事業として整備が実施されてきました。

総面積約88,000㎡の整備区域内は、連続した樹林帯や高茎草地の保存、ワンド及び湿地の創出による様々な水辺生物の生息・繁殖場所を確保する「自然環境保存ゾーン」と、水辺利用の拠点や水辺に親しめる空間を創設することで自然観察や環境学習が行える「人の利活用ゾーン」とに、ゾーニングされております。今回、「人の利活用ゾーン」の中に、水辺への導線施設としてあずまやを設置しました。また、堤防上の市道脇には、弾力性に富み、透水性にすぐれた木片チップ舗装を施し、訪れる人々が、景観を楽しみながらの散策や、健康増進のためのジョギングやウォーキングができる約1.0kmの遊歩道が整備されています。



整備概要



再生された「ワンド」

### 3. 森の創出

自然環境保存ゾーンに位置づけられている森の生物ゾーンには、埼玉県の「彩の国みどりの基金」を財源とする「本多静六博士の森づくり事業」により、5月下旬ごろ植栽を行う予定です。「本多静六博士の森づくり事業」は、博士が明治神宮の森を造成した時の、自然の力を活かした森づくりの考え方を取り入れ、森の創出を県民参加で行う事業です。本多静六博士は、日本で最初の林学博士であり、明治神宮の森の造成や、日比谷公園、大宮公園をはじめとする全国の公園設計に携わるなど、多くの功績を残した我が久喜市（旧菖蒲町）の誇る偉人であります。

### 4. あずまや設置の目的

「人の利活用ゾーン」の目的である、自然観察や環境学習など水辺利用のための拠点となる水辺広場には、地域住民の要望により休憩やイベントの活動拠点として、また水辺広場の中心的施設として、あずまやを今回、財団法人日本宝くじ協会の助成を受け財団法人リバーフロント整備センターが行っている「水辺施設の設置事業」として設置して頂きました。



あずまや（遊歩道から）

### 5. 施設説明

この度、設置して頂いた「あずまや」は、柱間、縦横3.0mの正方形の平屋建で、自然と馴染むよう焼杉の肌目のコンクリート製擬木を使用しており、屋根材には耐久性に優れたアスファルトシングル葺を使用しております。あずまやの内には、訪れる人々の休憩施設として、コンクリート製擬木の縁台を設置し、また、遊歩道からのインターロッキングを施したアプローチ部分の両側にも同様の擬木製ベンチを設置いたしました。また、あずまやに隣接して、旧1市3町の木（イチョウ、サクラ、キンモクセイ、月桂樹）を水辺広場のシンボル樹とし、記念植樹いたしました。



記念植樹

### 6. 整備の効果

現在、ワンドには大きなコイがバシャバシャと大きな音を立て、産卵に訪れており、堤防の斜面には、黄色い菜の花が咲き誇っております。

また、「自然環境保全ゾーン」は、今後、木々や草花の成長により森や草原が構築されることで、既に生息している生物をはじめ、多種多様な生物の生息が促進され、多くの訪れる人の目を楽しませてくれることでしょう。

そのような中、あずまやは、この地のシンボルとして、また地域イベントなどの活動拠点として、末永く活用されるものと期待しております。



鯉の産卵風景



堤防の菜の花